

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2992000022		
法人名	有限会社永真会		
事業所名	グループホーム磯城		
所在地	奈良県磯城郡田原本町阪手496-1		
自己評価作成日	平成27年10月7日	評価結果市町村受理日	平成27年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成27年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季を理解して頂くために、四季折々の風景や花など折り紙やイラストを作り施設内に壁紙として展示したり、自室の入り口にも利用者さん手作りの折り紙を吊るしている。又、閉じこもりにならない様に定期的に外出する機会を設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

交通量の多い大通りに面した立地条件でありながら、少し奥まった所にグループホームを開設されているため、静かでゆったりとした居住空間になっています。平屋で災害時の避難訓練などに利用者も参加し、屋内と屋外のガレージに災害時の備蓄をされるなど、利用者の安全面に細かく配慮されています。施設でありながら、利用者一人ひとりがよりよい生活を送ることが出来るように柔軟な対応をされ、最期の看取りまで関係者と十分に話し合いながら取り組まれています。外出など多くの催しを楽しめるよう工夫し、そのつど写真を撮り、個々のアルバムを作り家族に提供され、笑顔がたくさん残った思い出作りをして、家族にも喜ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域で共に生活している住民として地域との関わる機会を多くしながら、認知症への理解を得てもらう様交流をふかめていく。	「家庭的な雰囲気家族同様に」という理念の下、スタッフが理念を共有しながら、個々に応じた生活援助をされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の清掃、行事に参加させてもらっている。	自治会への利用者の参加(出来る範囲での掃除)など、積極的にかかわっておられます。近隣の住人が施設に訪れたり、地域の美容室を利用するなどして交流を図っておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設外の散歩や近隣のスーパー等を利用し、認知症についての理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の家族、役場等の行政の方々に参加して頂き意見交換をし、施設運営に取り組んでいる。	2ヶ月に1回、町・社会福祉協議会・自治会・家族を交え、施設の近況報告や行政との情報共有、自治会の話、施設の運営についての話し合いなど活発な意見交換をされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状の人数把握、家族様との連携、入居者様の状況報告をしている。	電話連絡など頻繁に行われ、顔の分かる間柄で互いに情報交換をされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の巡回回数を増やしたり、見守り、様子等を常に把握し、職員間の話し合いも密におこなっている。	スタッフは内部・外部の研修へ参加し身体拘束への理解に取り組み、実際、援助の中でも拘束をしない支援に取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止につとめ、日々の職員同士の話し合いをし職員の意識を統一にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料や書類に目を通して学びながら現状の入居者様が利用する際、スムーズに活用できる様習得している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様や家族様には、不安、疑問などがある場合、納得して頂けるまで説明させて頂く。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、支払時には施設に来所していただき施設への要望をお聞きし、要望に対してすぐに反映出来るように職員間で話し合い実行している。	利用料の支払いを、振込みなどではなく施設に直接支払いに来ていただくという方法を取り、月に一度は顔を合わすことが出来るように配慮され、利用者・家族からの意見を汲み取る努力をされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の会議や研修を行い意見交換し運営につなげている。	月に1回、全員のスタッフが揃って会議が行われています。意見を出しやすい雰囲気づくりと、意見が出ないスタッフには意見が出しやすいように働きかけて、活発な意見交換をされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	専務、課長等が勤務状況を把握しながら各自向上心をもって働ける様相談等に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人社内の研修以外に、県の主催する研修等にも参加し、研修後、他の職員にも報告し、スキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者の職員とお互いの施設における相談、活動内容などを話し合い良い面を教え頂き、支援にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様全員の言動、行動を見逃すことなく、その都度素早く対処することにより信頼関係を築いていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や電話等で不安に思っていること、要望等をお聞きし話し合うことにより信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の際に、本人や家族様の意向、必要な支援を話し合いサービス実施を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状態が違う為、その入居様にあった出来る事をみつけ、協力し合うことで関係がうまく築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様との家族関係や思いなど常に把握し、共に心の平安をもって頂く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が希望すれば出来る範囲でなじみの場所に行ったり、馴染みの人に面会に来てもらったりしている。	現在の利用者は全員町内の人で、家族はもちろん家族以外の面会も多く、利用者は外出・外食などを楽しんでおられます。また、民生委員の面会もあるなど、地域との交流は自由にされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の個々の能力に応じ常に何が出るか話し合い、全員が協力し合える支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や来所して頂き相談等を傾聴し関係維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり、思いや考え方が違う為、1対1で話し合う機会を設け、出来るだけ本人の思いを取り入れている。	普段のなにげない会話の中で、一人ひとりの要望を聞き入れるようにされ、利用者も要望を直接言いやすい雰囲気づくりをされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の状況は、資料、家族様等にお聞き出来るだけ入居前の暮らしに近づく支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムが違う為個々に応じた対応を細やかにしている。変化があればその都度話し合いの場を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様が意欲を持って課題を達成出来る様に支援しながら家族の意見も反映させる様に作成している。	スタッフは担当制になっており、利用者の日々の援助の方法についてケアマネジャーと意見交換しながら介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当職員間ではうまく意思疎通がとれており、情報交換も密に行い実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員全員の意見をとりいれ、その都度一番良いとおもわれる対処法をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報源として地域の図書館へ行き知識を得たり近くのスーパーで買い物という一連の流れを発揮して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続してかかりつけ医で受診されている方や嘱託医に往診して頂いている方がおられます。嘱託医に関しては、常に連絡がとれるようにしていただいています。	本人・家族の希望により協力医療機関に変更される方や、これまでの医療機関を継続される方があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の心身の状態を相談、報告をし、指示をあおいでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療スタッフに定期的に様態を聞き、退院後の参考にしたりその後の状態の変化について相談できるよう担当医と密に連絡が取れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の同意を得た上で、どこまでの支援を提供するか話し合い地域の病院把握と嘱託医への情報を共有している。	過去に看取りの経験もあり、それぞれの利用者に応じた終末期を迎えられるように、関係者が話し合っ安心して納得された方法へと取り組んでおられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い訓練もおこなっている、マニュアルを参考にしながら実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の避難訓練を行い、施設独自でも行っている、会議で話し合い地域の方々にも協力をあおぐ。	年に3回、消防署と地域住民の協力を得て、利用者も参加した避難訓練が行われています。災害の備蓄も施設内と外のガレージの2箇所に設置されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の人に対する言葉かけを基本として人格を尊重しながら日々対応している。	アットホームな雰囲気を大切にしながらも、利用者を尊重した態度で接するように心がけておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各自が何が好みなのかを把握してできるだけ各自で決めてもらえるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体に良いと思うことは出来るだけ全員で行い、その後の時間は各自ゆっくりと過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時洗顔、整髪を行い各自自分の服を選んで頂く、女性の方は、外出時化粧をされる方もおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることは職員と一緒にいきます。 (テーブル拭き、配膳、食器拭き、部屋掃除)	テレビを見ていて食べたいものが出てくれば食事のメニューに取り入れるよう話し合ったり、時には簡単な調理をみんなで楽しめるよう工夫され、食事の用意や後片付けも利用者が自主的に役割を持って行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の栄養状態を把握しバランスの取れた食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所にて歯磨きをして頂いています、入れ歯の方は、夜間義歯を預かり入れ歯を洗浄しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し各自に合わせた声かけをして失敗を減らすように支援しています。	個々の排泄パターンを把握し、自立を促した見守りや個々に応じた援助をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く摂取していただき歩行運動や散歩をしていただき軽く身体を動かして頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り希望を尊重するようにしています。事故のないように見守り支援を行っています。	入浴時の見守りと、必要な方は介助をされています。入浴を希望されない方にはタイミングをみて促しを行っておられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自希望時ゆっくりと休んで頂きます。就寝時間は21時となっていますが各自のペースで休んで頂きます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の服薬内容は把握できている。服薬時も飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに応じて行っています、食事のお手伝い、新聞を読んだり、クロスワードをしたり、気の合う人同士のおしゃべり、外出、買い物等。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の面会時に家族と外出し、本人と楽しく過ごしてもらい、家族が普段連れて行けない場所にも職員の支援で共に出かけている。	利用者の希望をなるべく叶えられるよう、スタッフが個々に対応されています。レクリエーションとして外出の機会を設け、外食・カラオケ・買い物などさまざまな場所に行き、楽しんでおられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパー等買い物に出かけ、支払い時には職員が見守りながらおこなってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきは、出したい時に書いてもらっている。年賀状や、暑中見舞いのはがきは毎年必ずだしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を第一に見た目もきれいにしています。季節に応じ置物を変えたりしている。	清掃が行き届き、採光や室温も配慮され、加湿器を置いて感染予防に積極的に取り組んでおられます。季節を感じるものの出来る部屋の飾りは利用者とともに製作され、楽しみのひとつになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士同じテーブルに座っていただき会話を楽しんで頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様や家族の方と相談し自分の気に入ったお部屋にされています、仏壇、テレビを置かれている方もいらっしゃいます。	個々の利用者に応じて好きな家具や家電を持ち込んでおられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足元の安全をはかり明るい生活空間をとり、居室の掃除など簡単な作業は行って頂いています。		